建設防災ボランティアニュース 第70号

目次

- 年頭のご挨拶
- 後期道路施設等点検
- 隅田川著名橋等ツアー研修会
- 施設見学会
- 道路整備保全公社の紹介

年頭のご挨拶

新年おめでとうございます。

会員の皆様にとりまして、本年が平穏で幸多い良き年であります様お祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、一年の漢字が「災」に決まったように、北海道地震や西日本豪雨など例年にも増して災害に見舞われた年でした。加えて梅雨明けの猛暑を始め私たちを取り巻く環境が確実に変化しつつあることも改めて認識させられた年でもありました。

私ども協会が発足して 21 年になりますが、幸いこの間、都管内では 5 年前の大島土砂災害以外には大きな災害は発生しておりません。しかし過去の発生履歴や近年の事例を俯瞰すると、それは単に確率的な偏在ゆえの幸運でしかなく、却って発生リスクは高まりつつあると考えざるを得ません。

日頃、科学技術の恩恵を享受している私達ですが、こと地震予知や土砂災害予測に関しては未だ一進一退の域を脱し切れないでおります。新年を迎え改めて、皆様とともに災害に対する日頃の心構えと発生後の適切な対応こそが肝要であると確認させて頂きたいと存じます。

お陰様で定例の協会活動は順調活発に行われ、ここ数年、会員数も 150～160 名で推移しております。しかしながら会員の高齢化が進む中、私たちの地道な活動を永続して行くために、新入会員の確保が不可欠であり、この点につきましても引き続き皆様の更なるご協力を頂ければ幸いです。

本年も協会活動への積極的なご参画・ご支援と災害への不断の心構えをお願いしますとともに建設局、道路整備保全公社、公園協会のご繁栄をお祈りし新年のご挨拶とさせて頂きます。

2019 年元旦

会長　杉浦浩

後期道路施設等点検

後期の「道路の施設とバリアフリー点検」が 11 月 5 日から 12 月 13 日の期間で実施され、前期と同じ 62 名が参加して無事終了しました。私たちの経験や知識が活かせるとともに、最近の建設行政の動向も感じられる貴重な機会です。今後とも多くの会員の参加をお願いします。

事務所	実施日	参加協会員
一　建	11/26・30、12/5	3 名
二　建	11/13～29	8 名
三　建	11/13	3 名
四　建	11/20～26	9 名
五　建	11/8～12/13	2 名
六　建	11/20～26	3 名
西　建	11/5～30	10 名
南東建	11/20	8 名
南西建	12/13	9 名
北南建	11/13・15・26	3 名
北北建	12/12	4 名
計	11/8～12/13	62 名

担当理事　久保田元久

気になる個所もありました・・・南東建班

11 月 20 日、南東建ボランティアは 8 名（原田、織田、杉本、矢内、丸岡、若尾、佐々木、柴田、以上敬称略。）の参加を得て点検を行いました。

当日は、前日からの雨空が心配されましたが、晴天となり「天気晴朗なれども風やや冷たし。」の中実施しました。点検区間は主要地方道第 56 号線目黒町町田線のうち、起点の鶴間橋から終点の町田街道・南橋までの区間、及びこの道路と途中で分岐し町田街道金森郵便局交差点に至る区間を合わせた約 3.5 ㎞です。

参加ボランティアを2班（左側担当 L 班：原田、矢内、若尾、柴田及び南東建・中曽根統括課長代理。右側担当 R 班：織田、杉本、丸岡、佐々木及び南東建・佐藤主事）に分け、小松所長さんから活動への御礼のご挨拶をいただいた後、9 時 15 分頃、所のバスにて点検現場に向かいました。

起点の鶴間橋は神奈川県大和市と東京都町田市との境界付近に境川が流れており、川幅はかなり広く、ここを渡河して鶴間橋が架橋されています。境川右岸側橋詰からスタートし終点の南橋に向けて点検を行いましたが、沿道には大きな屋敷と周辺の畑地、そして天満宮の御社や緑地公園もある中、近年では金森団地をはじめ民間による住宅地開発もかなり進められているという地域でありました。さらに、遠景には大山等丹沢山地が望めるかなり良好な環境にあり、金森団地開発に関連して整備された区間の道路については、幅員も 16m～18mであり、両側歩道と植栽も整備された道路でありました。

しかし整備から 30 年以上経過しており、事務所の道路維持保全への多くのご努力にもかかわらず、いくつかの気になる事項がありました。例えば、街渠ブロックや植栽ますの一部に段差が若干発生していました。また、経年劣化による街灯の錆、不明のコード・部品の存在など、道路管理に関わる事項について指摘させていただきました。

また旧道区間については、長年の懸案とはいえ狭い幅員の中で何とか片側歩道を設置するなど、安全への多くの工夫努力の跡が見られました。

無事点検を終え、南橋にて全員集合の記念撮影をした後、所のバスで 11 時 30 分頃帰所しました。所幹部は局の重要会議に向けて会議中のため、全権委任された中曽根統括代理に本日の所関係者のご協力に対し御礼挨拶の後帰路につきました。駅へ向かう途中、有志7名によりいつものお店に立ち寄り、懇親昼食会を催し本年の活動の締めを盛大に行い、全ての日程を終えました。

末筆ですが、南東建の小松所長はじめ、関係職員各位に深く感謝いたすとともに、参加された皆様、誠にありがとうございました。来年もよろしくお願いいたします。

南東建班　柴田賢次

施設見学会開催

「防災と健康」地域の多目的調節池へ

平成 30 年 11 月 9 日（金）、北北建所管の黒目橋調節池及び金山調節池の施設見学会を実施しました。当日は生憎の雨模様の天気でしたが、28 名（当初申込者 35 名）の会員が参加し、水災の多い昨今、有意義な見学会となりました。

黒目橋調節池（東久留米市）は、黒目川と落合川の洪水対策施設として平成 28 年に完成しました。貯留能力は約 22 万㎥で、都内では環七地下調節池（約 54 万㎥）に次ぐ 2 番目の大きさです。昨年度は 6 回稼働し、今年度は既に 5 回目となり、黒目川及び落合川の洪水対策で威力を発揮しています。また、調節池の地上部に建てられた「東久留米市スポーツセンター」は地域の健康増進の活動拠点にもなっており、市民にとって調節池とともに大切な施設となっています。

金山調節池（清瀬市）は柳瀬川の洪水調節池ですが、支川の空堀川の改修により、下流の柳瀬

川で増大する流量を負担させる目的で計画され、平成6年に完成しました。貯留量は約 4 万 6 千㎥で比較的小規模な調節池です。平成 28 年 8 月の台風 9 号、平成 29 年 10 月の台風 21 号時にも流入し洪水調整機能を発揮しています。さらにこの調節池には他の調節池には見られない大きな特徴があります。池底にくず石を敷き詰めることによって豊富な湧水を活かしたビオトープが形成され、カワセミやダイサギ、ミナミメダカ、カヤネズミなど多様な水辺の生き物が生息し、地域の憩いの場となっていることです。

参加者は都庁前で大型バスに乗り込み、午後 1 時に出発、午後 2 時 10 分に黒目橋調節池に着きました。雨が強かったため、バスの中で北北建の若林所長からご挨拶を頂き、続いて小川工事二課長から河川事業の概要説明、山崎工事一課長から街路整備事業の説明がありました。

その後バスを降り、北北建の職員の皆様に対して杉浦会長からご挨拶の後、二班に分かれ、15 分程度の時間差をつけて地下の調節池に入りました。調節池の中では、担当者から構造物や機能性などについて克明な説明を頂きました。

午後 3 時 40 分に黒目橋調節池を出発し、午後 4 時 10 分に金山調節池に着きました。ここでも二班に分かれ、越流提、池内通路、池外通路などの施設や豊かに形成されたビオトープの状況など丁寧な説明を受けました。

午後 4 時 40 分、金山調節池を出発し、途中、西武池袋線の清瀬駅に立ち寄り、一部の参加者を降ろしました。金曜日の夕刻ということもあり、かなりの交通渋滞を覚悟していましたが、予定より 15 分の遅れの午後 6 時 15 分に都庁前に到着しました。都庁前で降りた参加者は僅か 6 名で、大半は清瀬駅で降りてしまった！！と改めて気づかされた次第です。

最後に、職務ご多用の中また悪天候のなか、丁寧に案内して頂いた北北建の皆様に、参加者一同改めて御礼申し上げます。

担当理事　藤田　進

思い出深い見学会に

今年度の防災ボランテイア施設見学会は、黒目橋調節池と金山調節池でした。当日は生憎の小雨混じりの天気のなか、若林所長を始め多数の職員にご案内頂き、10 年ほど前、北北建の工事第二課長であった私にとっては思い出深い見学会となりました。

黒目橋調節地では、巨大な地下施設の中に入り、排水ポンプ、換気施設、取水堰などを説明していただきました。

私が工事第二課長時代は、しばらく中断していた第2期工事の連続地中壁の設計を行っていました。当時、黒目川と落合川の洪水頻度は、管内の他の河川と比べ低かったので、第2期工事の緊急性は必ずしも高いようには思えませんでした。ところが、見学会の説明では、調節池への流入頻度は、平成 28 年までは年 1 回程度であったが、平成 29 年と 30 年は年 4~5 回で、治水効果を大いに発揮しているとのことで、多摩地域でも近年の豪雨多発が進む予兆のように思えました。

黒目川と落合川は、湧水に恵まれており、清流特有の様々な水生動植物に溢れ、豊かな自然環境が保全されています。特に落合川については、平成の名水百選に選ばれ、子供の川遊びや家族のリクリエーションの場として市民から愛され、多くの環境団体が自然観察や水遊びのほか定期的な外来生物の駆除や清掃を行っています。

私が赴任した時、ちょうど落合川の最後の護岸改修が終わったところで、ホトケドジョウの生息環境が破壊されたとする環境団体が提訴の準備を進めていました。現場はすでに完成しおり、工事前に環境団体や住民との間でどのようなやり取りがあり、工事に際しどのような工夫を行ったかなどを理解して、口頭弁論の準備をするのに苦労しました。河川部からどっさりとした想定問答集を受けとったものの、工事の全体像や現場での経緯など分からない点があり、工事説明会のほか、市議会や都議会の議事録なども調べる必要がありました。しかも、口頭弁論では、手持ち資料なしで臨まなくてはならないため、体系的に理解して暗記せざるを得ず、久々に猛勉強をしました。

原告側は、弁護団には全国的にも著名な弁護士を揃え、証人には環境団体のほか河川や水生生物の大学教授など錚々たるメンバーを加えてきたので、口頭弁論ではどういう展開になるのか全く予想がつきませんでした。裁判当日は、こうなったら何が飛び出るか分からない冒険を楽しもうと気持ちを切り替えて臨みました。

説明を聞く船山さん（右端）

結果は、原告側は「船頭多くして船山に登る」といった感で、準備不足のためか全体としてまとまりがなく、相手側の弁護士の追及にも鋭さが感じられませんでした。東京地裁で勝訴した後、東京高裁、最高裁まで進みましたが、河川部と北北建工事第二課を始めとする皆さんの努力が実り、私が定年退職する1か月前に全面勝訴が確定し、ようやく胸を撫で下ろしたのを覚えています。

調節池が完成し、今後黒目川と落合川の河床掘削を進めることになっていますが、特に落合川の自然環境に対する住民や環境団体の意識が高いため、清流と動植物の保全が大きな課題になると思われます。

金山調節池においては、調節池内のデッキを歩きながら、豊かな自然が保全された環境や池の構造について、説明をしていただきました。この調節池は、地下式の黒目橋調節池と異なり掘り込み式で、越流堰から流入し貯留された洪水は、河川の水位が低下するとフラップゲートから自然排水される仕組みになっています。

調節池は、年間を通し豊かな湧水がゆっくりと流れる浅い池となっていて多様な動植物が生息するビオトープを形成しています。四季折々の草花や昆虫、野鳥の観察が楽しめる貴重な湿地性生態系が保全され多くの市民や環境団体から愛されています。こうした貴重な調節池の自然を保全するため、公募による市民ボランテイア、東京都及び清瀬市から成る「金山調節池ワークショップ」による維持管理が行われています。ワークショップは、年5回ほど行われ、堆積土砂とアオミドロの除去や清掃、帰化植物の駆除などの維持管理作業をしています。また、生態系の調査や観察会が実施され、地域や学校の自然学習の場ともなっています。

7月の河川愛護月間行事では柳瀬川でボート遊びなど様々な川遊びが催されています。工事第二課長時代は、金山調節池ワークショップや河川愛護月間行事に北北建と河川部の若手職員とともに参加し、様々な市民や環境団体の方々と触れ合い、相互理解を深める良い機会となりました。

また、私自身、子供のころから自然が大好きだったので、仕事を通し都内に残された貴重な清流

と多様な水生動植物に感動し豊かな自然との触れ合いを楽しむことができました。

これからも、落合川と黒目川や柳瀬川は、かけがえのない豊かな自然環境が保全され、治水と環境が両立し、人々から愛されいとおしく思われる川であり続けられるよう、河川整備に市民と手を携えながら一層の工夫をされるよう願っております。

二建班　船山吉久

調節池に関連する道路について

黒目橋調節池及び金山調節池ついてはどなたかが報告してくれると思いますので、今回は両調節池に関連する道路について記載してみます。

黒目橋調節池が計画された時点では、都道前沢保谷線第234号線の拡幅整備を道路橋梁課の事業として実施していました。その後この都道234号線のバイパスとして東村山都市計画道路3.4.15の1号線（以下「東村山3･4･15の1」という。）の整備を実施する予定でしたが、調節池が計画され、またその整備に相当の日時を要すること、また埼玉県境に位置する都市計画道路であることなどから、道路としては事業時期未定として調節池の整備を先行することとなりました。

河川部に対しては、東村山 3･4･15 の1の計画の調節池部分は、黒目川と落合川の合流点にあるため両河川の橋梁が必要であること、黒目橋調節池の上も橋梁で通過するため調節池に直接影響する橋脚が必要となることなどから、構造を考慮してほしいとの要請をしました。

その後の検討では、東久留米市下谷公園を残すために地下構造となることから、東村山 3･4･15の1は、橋梁でなく平面道路とする可能性もあるとしました。

金山調節池は柳瀬川の調節池で、都市計画道路には関連していないが、調節池上流の「清瀬橋」で、東村山3･4･15の1の延伸の東村山都市計画道路3.4.15の2号線（以下「東村山3･4･15の2」という。）を整備する予定としています。この場所では柳瀬川段丘が接近して斜路となっており、道路内を流れる雨水が、一気に「柳瀬川」に流下することとなるため、同路線の整備に当たっては排水池を整備し、柳瀬川へ直接流下させることのないように計画をしています。

この東村山3･4･15の2は、都道練馬所沢線第24号のバイパスでもあって、東村山 3･4･15 の1共々、「放射第7号線（目白通り）の延伸」であり、「都県境」に関連する都市計画道路として、埼玉県と協議したうえで、整備することとなっています。いずれも黒目川と柳瀬川に関連すると都市計画道路としてご紹介しました。

北南建班　新川彰

隅田川著名橋等ツアー研修会

●研修会の概要

隅田川著名橋等ツアー研修会が、11月 28 日（水）午後3時半から、東京都道路整備保全公社において、協会・公社・建設局から昨年よりも多い50名の方々にご参加いただき開催されました。

勝鬨橋の長寿命化工事に伴い、昨年12月にミニツアーが一時中止となり、今年度から装いも新たに開始された隅田川著名橋等ツアーは順調に運営されています。こうした中、今回はお客様の応募状況やツアーへの評価、そして隅田の橋梁群を改めて勉強をする研修となりました。

冒頭の杉浦会長の挨拶に続き、御来賓の建設局の加藤直宜道路保全担当部長、道路整備保全公社の東了一常務理事から、心温まる御挨拶を頂戴しました。

加藤担当部長

東常務理事

続いて、道路整備保全公社の清水担当係長から「隅田川著名橋等ツアーの開催状況等」として、5回の開催で、44名の会員が案内し、お客様81名、最高応募倍率19.1倍、ツアーの満足度90%前後という、非常に嬉しい報告がありました。

次に 10 年継続してツアーを担当された、伊藤政行、内山一夫、久保田元久、黒渕弘二、野村孝雄、吉田安輝の各氏が紹介され、出席された方々に、会長から感謝状が贈呈されました。

講演に移り、道路管理部の加藤順一橋梁構造専門課長から「隅田川著名橋等の現況と勝鬨橋の工事予定」と題して、オリンピックに向けて塗装やライトアップの工事が続く、各橋梁の現況等を詳しく御説明いただきました。配付された資料共々、これからの案内に非常に役立つ講演でした。ありがとうございます。

講演終了後、場所を一庁 32 階職員食堂に移して懇親会が開かれました。新たに局から松島保全課長、原島一建所長、公社の杉橋道路部長、石坂特命担当部長、漆戸公益事業課長など、ミニツアーを支えていただいている方々も加わり、43 名という昨年を上回る賑やかな会となりました。

参加者のご挨拶の中には、「橋梁群の工事が完成した暁には、『隅田川ライトアップツアー』を実施しては！」との大胆な提案もあり会場は盛り上がりました。担当理事一同心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

担当理事　林幹生

●ツアーガイドブックの作成について

隅田川著名橋等ツアーで、ツアー参加者に配布する A3 版のツアーマップと、案内役の会員に配布した 170 ページのガイドブックを作成しました。

ツアーの企画を聞いたときに、私は平成 9 年に道の日のイベントを担当したこと思い出しました。隅田川を下る船に公募した都民を乗せて著名橋の説明をしたのですが、船のスピードが速く次々と著名橋を通り過ぎてしまうため、準備したことの大半は説明ができませんでした。その時の経験と、私が開設している『道路 web』というホームページに隅田川の橋を載せたいという思いがあり、ガイドブックの作成を手伝うことを申し出ました。

ツアーマップとガイドブック

ガイドブックとツアーマップは、堀中、林、鈴木の各理事と、公社の漆戸課長、酒井係長が集まって、意見交換と分担をしながら作成しました。堀中理事は案内の手順など、鈴木理事は河川関係の写真集めや執筆など、林理事は橋梁関係の写真集めや印刷などを担当され、私は橋梁関係の執筆を担当しました。研修会の意見などを新井副会長にまとめて頂き、最後の修正をして完成しました。

執筆にあたって考えた第一の問題は、説明の時間配分でした。船は著名橋を次々と通り過ぎる一方で、途中で 10 分程度の時間をかけて船着き場に寄ります。ガイドブックは、船着き場に寄る時間を活用して、船から見えるものでまとまった説明を

する構成にしました。

第二に、説明者とツアー参加者との交流を深めるためにも、説明者が詳しい分野で深みのある説明ができるようにしたいと考えました。ガイドブックには現橋の説明に加えて、架橋に伴うまちづくりの話や橋梁の管理の民営化の歴史など、話を膨らませる材料になりそうな話題を含めました。ツアーの説明は「説明者に委ねる」ことになっているので、取捨選択をして活用して頂ければと思います。

ガイドブックには、全ての橋梁について船から見た橋のシルエットから説明できる形式選定の話を記載しました。また、「江戸時代に日本橋梁史上最大の落橋事故を起こした」とか「架橋に伴って都営最後の渡し船が廃止された」といった橋毎のエピソードも記載しました。

記載にあたっては、ネットなどで資料を確認するとともに、資料で解らない部分については、かちどき橋の資料館の井上館長にアドバイスを頂きました。

説明役の方からはガイドブックが厚くて読む気力が削がれるという指摘があったり、参加者からはガイドブックに記載しなかったことを質問されたり、近年の改修整備の話を調べきれなかったりと、至らない点も多かったと思います。ツアー参加者や説明者が充実した時間を過ごせるよう、ガイドブックを活用して頂ければと思います。

二建班　高尾弘幸

お世話になっています！

道路整備保全公社からの寄稿です！！

明けましておめでとうございます。ボランティア協会の皆様には、日ごろから防災訓練への参加や、都事業への理解を深める啓発活動など様々な社会貢献活動への取組みに対して敬意を表したいと思います。公社としても円滑な活動が行えるように支援させていただいているところです。

このたびの「隅田川著名橋等ツアー」の運営にあたりまして大変お世話になっております。あらためて御礼申し上げます。ご案内のように、このツアー

は勝鬨橋の長寿命化工事に伴い、勝鬨橋橋脚内見学ツアーを一時休止し、代わりに実施しているものです。

一般の方を対象として、公社ではツアーの応募受付、抽選、参加者決定、水上バスとの調整等の事務を行っており、ボランティア協会の皆様にはガイド役をお願いしているところです。昨年 6 月から毎月第 4 木曜日実施していますが、水上バスを利用したこのツアーは、大変人気が高く、予定定員 15 名に対して、平均 8 倍の応募があります。

参加された方々は、ガイドのうん蓄深いかつ経験談を交えた丁寧な説明と相まって、普段なかなか橋を下から見る機会もなく、隅田川の沿川を船上から眺められることに大いに満足していました。

本年も引続き、ボランティア協会の皆様には、お忙しいところ恐縮ですが、ガイド役をよろしくお願い申し上げます。なお 3 月はお花見シーズンと重なり水上バスも混雑するため中止の予定です。

さて、当公益事業課では、ご協力いただいている「隅田川著名橋等ツアー」以外にも、道路の重要性を都民の皆様に知っていただくため、様々な普及啓発事業を実施しています。ご参考までに、いくつかご紹介したいと思います。

＜夢のみち事業＞

この事業では、都民に道に対する関心を持っていただくとともに、道路愛護精神を高めることを目的として、東京都道路整備保全公社が主催、東京都が共催となり、道路関係団体等とも連携し各種行事を実施しています。

笑いのトークショー

例えば、毎年 8 月の道の日関連イベントとして、新宿駅西口広場で開催する東京都・公社・企連協関係団体等によるブースの出展、パネル展示、著名人のトークショー等を行う「夢のみちイベント」があります。

子供達のまちづくり

また、夏休みならではの企画として、道路に関連した施設や工事現場を親子で見学する「親子体験ツアー(道路見学ツアー)」の開催、そして9月には東京ふれあいロードプログラム認定団体や都内のボランティア団体による活動発表や有識者による講演等を実施する「フォーラム」などがあります。

「夢のみち 2018」では、「防災・減災」「無電柱」をキーワードにイベントを展開し、たくさんの来場者に道の大切さ・役割等を PR しました。

＜道路見学ツアー＞

都内の道路工事現場や道路関連施設などを都民に見学していただく「道路見学ツアー」を建設局の協力のもと企画・運営しています。このツアーでは、工事現場だけではなく、道路付属物である街路樹の役割を紹介する等、様々な視点から道路事業を PR しています。年 10 回程度開催しており、参加者された方々には、道路の役割を再認識する良い機会となった等好評を博しています。

ボランティア協会の皆様には、本年もよろしくお願い申し上げます。

(公財)東京都道路整備保全公社総務部公益事業課

新会員の紹介

次の方々が新たに入会されました。よろしくお願いいたします。

東了一さん(四建班)
高田健一さん((東部公園班)
林俊彦さん(東部公園班)
小野敏正さん (東部公園班)
杉橋要さん(五建班)

協会からのお知らせ

① 今年度の初動対応訓練は 2 月 1 日(金)に実施されます。奮って御参加ください。
② 各班の活動報告をお待ちしています。下記編集担当理事又は林まで連絡願います。
林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)
③ 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っています。
アドレス(http://tokyo-adv.info/)

＊＊＊編集後記＊＊＊

オリンピックをはじめとして、災害復旧に、行事や施設の運営にとボランティア活動の重要性はますます高まっています。還暦を過ぎた私たちにも、まだ役に立てる場所があるようです。これからも自分で枠を設けず、出来ることをしていこうと、心の片隅に思ったお正月でした。今年もよろしくお願いいたします。

発行人　杉浦 浩
発　行　東京都建設防災ボランティア協会
新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル 20F
(公財)東京都道路整備保全公社内
編　集　佐野正生、高橋紀男、林幹生、
堀内康彦、丸岡敏夫